

2006～2007年における国内の飼い主放棄犬での *Erysipelothrix* 属菌に対する抗体調査

高橋敏雄^{1)†} 小川 孝²⁾ 成嶋理恵¹⁾ 内山万利子¹⁾ 小佐々隆志¹⁾
嶋崎智章¹⁾ 原田和記³⁾ 嶋崎洋子¹⁾

- 1) 農林水産省動物医薬品検査所 (〒185-8511 国分寺市戸倉1-15-1)
- 2) 農林水産省消費・安全局 (〒100-8950 千代田区霞が関1-2-1)
- 3) 日本獣医生命科学大学獣医学部 (〒180-8602 武蔵野市境南町1-7-1)

(2009年7月9日受付・2009年10月14日受理)

要 約

起因菌の分類学的研究に基づき、*Erysipelothrix tonsillarum* は、犬の細菌性心内膜炎の起因菌のひとつであることが報告されている。そこで、本病の犬における最近の浸潤状況を把握する目的で、2006～2007年に兵庫県動物愛護センターに持ち込まれた飼い主放棄犬の血清166検体について、本菌属に対する生菌発育凝集 (GA) 抗体価を測定した。その結果、2006年106例のうち7例 (6.6%)、2007年60例のうち7例 (11.7%) でGA抗体価が16倍以上の陽性であり、うち1例 (2006年) は128倍と高い抗体価を示した。過去の1999年度での同様な調査成績に比べて、今回の調査での抗体陽性率は上昇傾向にあり、家庭犬にも低率ではあるが、*E. tonsillarum* 感染個体が存在している可能性が示唆された。——キーワード：犬, *Erysipelothrix*, 生菌発育凝集抗体価。

----- 日獣会誌 63, 136～139 (2010)

† 連絡責任者：高橋敏雄 (農林水産省動物医薬品検査所検査第一部)

〒185-8511 国分寺市戸倉1-15-1 ☎042-321-1841 FAX 042-321-1769 E-mail : takahat@nval.go.jp